

クラブ・サークル活動がアルバイトに及ぼす影響

津之下 聡

はじめに

この度、社会学調査実習の授業で「大学生とアルバイトに関するアンケート」を実施した。そのアンケートの結果と、個人的にインタビューした内容をもとに「部活動を行う大学生のアルバイト」について迫ってみたいと思う。

私はこの大阪教育大学で硬式野球部に所属している。これまで中・高と野球部に所属していた私にとって、大学生活でアルバイトをしながら部活動をするということは大きなカルチャーショックであった。なぜかという、野球部は練習のしい部活動のひとつで、盆暮れ正月でさえ休みがあつたりなかったりと時間に追われ、アルバイトなど考えられなかったからだ。しかし、大学の野球部では「自分でお金を稼いで野球をする」といった人も多く、アルバイトが公認されていたのである。

さらに驚いたことは、大学を卒業された OB の方々が営業するお店で、部員がアルバイトを斡旋してもらうことや、何十年も代々部員がアルバイトについているお店があることだ。

この報告では OB の方が経営するお店で働く後輩 T へのインタビューと照らし合わせながら、部活動をする学生のアルバイトにはどのような特徴があるかえてみたい。

後輩へのインタビュー

インタビューは部活動が終わった休日夕方に約一時間ほど行い、特に質問は用意せずに会話を録音した後に書き出す形式で行った。

インタビューした T は大阪教育大学の夜間に通う学生である。夜間の学部は授業が午後7時から午後9時までとなっていて、彼は昼は部活動の練習、夜は大学という生活をしている。アルバイト先は OB の方が経営する焼き鳥屋で、代々野球部員がアルバイトについている。他のアルバイト先と比較して最大のメリットは「部活動を優先させることができ、練習や試合によって入る日が安定していなくてもかまわない。また、部活動が長引いて遅刻してもかまわない」という OB の方ならではの配慮がある点だそう。

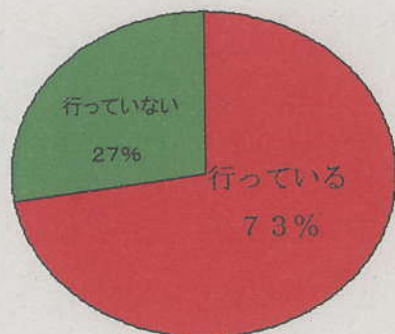
部活動をしている学生のアルバイト

以下では、アンケート結果をもとに、クラブ・サークル活動を行っている学生のアルバイ

トの特徴について考えてみたい。クラブ・サークル活動を行っている学生がどのくらいいるのか、その内どれくらいの学生がアルバイトを行っているのか、どの程度アルバイトを行っているのか、を見てみよう。

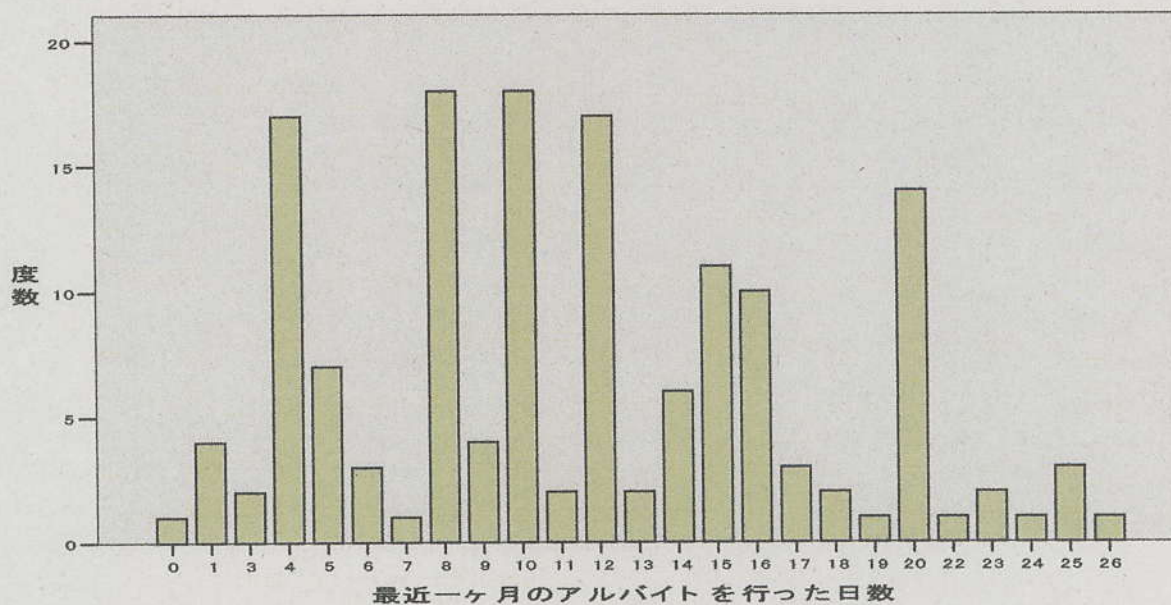
部活動・サークルに所属する大学生は188人中138人と約7割である。

図1)クラブ・サークル活動を行っている学生の割合



そのうち一ヶ月の活動日数は10日以内が全体の約5割を占めている。また、10日前後と20日前後に活動日数が集中していることがグラフから分かる。インタビューしたTは20日前後の活動日数なので比較的大多数のグループに入るといえる。

図2)一ヶ月のアルバイト日数



また、クラブ・サークル動を行っている学生の約7割はアルバイトをしている。これは、活動を行っていない学生と比較して低くなっているが時間の使い方が違うということを考えれば当然の結果と言える。

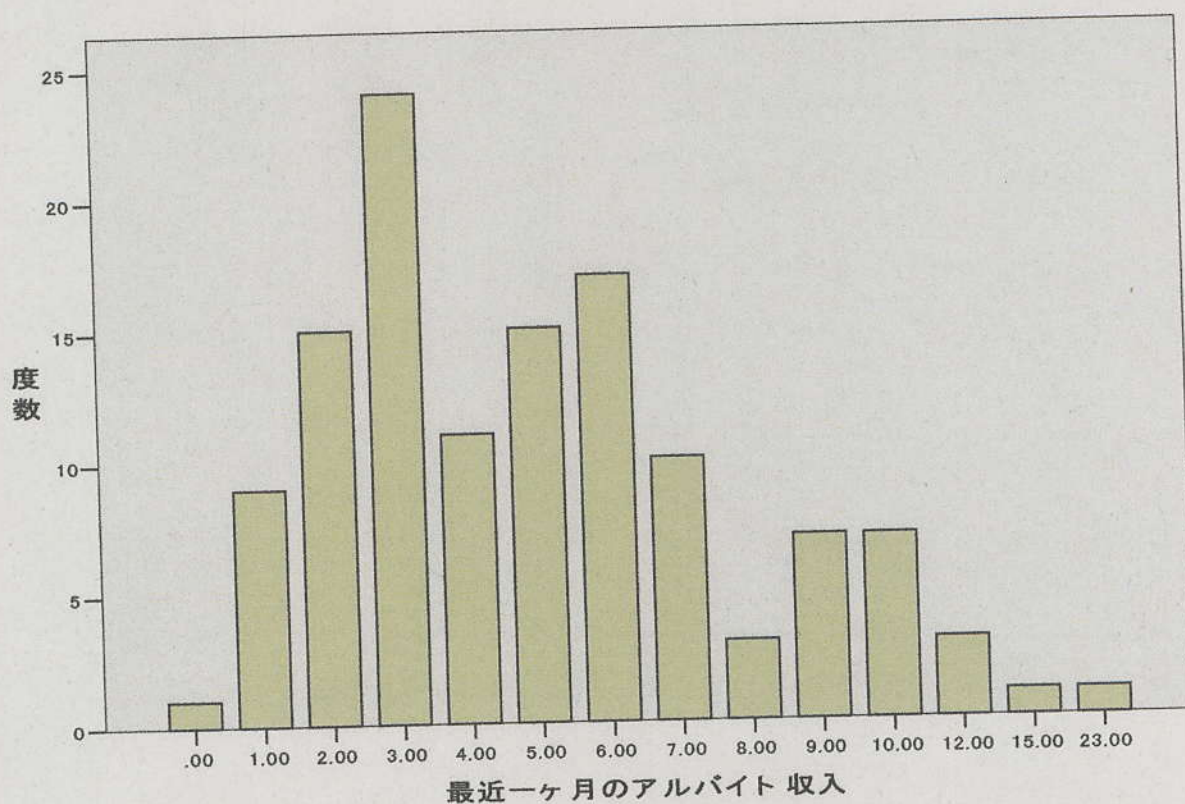
図3)クラブ・サークル活動とアルバイトの有無

		最近一ヶ月にアルバイトをしたか		合計
		した	していない	
クラブ・サークル活動の有無	行っている	106(77%)	32(23%)	138
	行っていない	47(90%)	5(10%)	52
合計		153(80%)	37(20%)	190

・ 収入

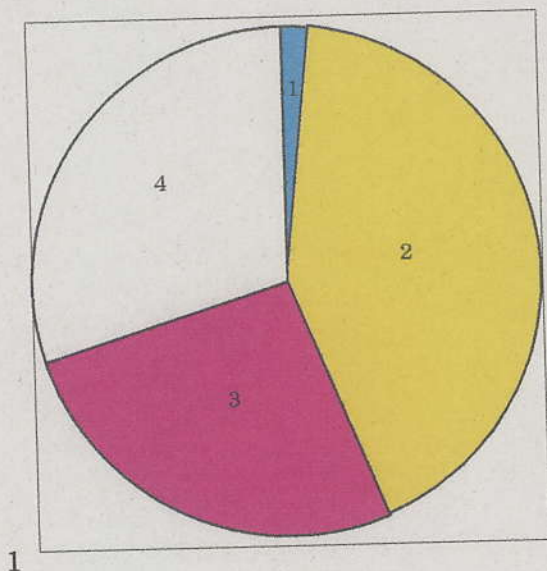
では、クラブ・サークル活動を行っている学生は、アルバイト収入に関してどのような特徴があるのだろうか。アルバイトをしている学生全体について、収入の分布を見てみよう。

図4)一ヶ月でのアルバイト収入



グラフから、アルバイトによる収入は3万円・5万円・6万円・それ以上に分類することができる。よって0～3万円未満をグループ1、3～5万円未満をグループ2、5～6万円未満をグループ3、それ以上をグループ4としてグラフ化してみる。

図5)アルバイトによる収入



このように、全体では5万円以上の収入が全体の約6割を占めていることがわかる。
では、クラブ・サークル活動の有無によって収入にはどのような違いがあるのか注目してみる。

クラブ・サークル活動の有無と収入のグループ

図6)クラブ・サークル活動の有無と収入のグループ

ケース		1	2	3	4	
クラブ・サークル活動の有無	行っている	33(31%)	21(20%)	22(21%)	28(28%)	104
	行っていない	8(17%)	8(17%)	8(17%)	22(49%)	46
合計		41	29	30	50	150

このようにクラブ・サークル活動を行っているものとそうでないものを比較すると、クラブ・サークル活動を行っていないものの方が、高収入者が多いことが分かる。

仕事内容

次に、クラブ・サークル活動を行っている学生は、アルバイトの業種にも何か特徴があるのかみてみたい。

今回、業種は「居酒屋・バー」「塾講師」「家庭教師」「コンビニエンスストア」の4種

が大多数を占めていたのだからこれらに絞るとする。

クラブ・サークル活動をしている学生はそれぞれ「11%」「22%」「35%」「11%」となっていて、していない学生はそれぞれ「6%」「37%」「30%」「10%」となっている。

図7)クラブ・サークル活動の有無と アルバイトの業種	居酒屋・バー	塾講師	家庭教師	コンビニエンスストア
クラブ・サークル活動を行っている	11%	22%	35%	11%
クラブ・サークル活動を行っていない	6%	37%	30%	10%

「居酒屋・バー」は遅い時間帯のアルバイトであり、クラブ・サークル活動の後に働くことができるため両者に差が出てきているといえる。これに対し「塾講師」はシフトが固定されており大学の授業が終了した直後の夕方頃から働くことが多いため、活動をしていない学生が多く働いていることが分かる。

このように、クラブ・サークル活動によってアルバイトをする時間帯にも制約が出てくるため、働く業種に差が出てくるといえる。

優先度

先のTへのインタビュー結果にもあったように、「部活動が長引いて遅れてもいい」ということは大きなメリットであった。二つの事柄が時間的に重なったりしないように工夫はそれぞれだろうが、何らかの理由でどちらかを優先させなければいけない事態に遭遇した場合どちらを優先させるのかアンケート結果を見てみたい。

アンケートでは「クラブ・サークルのためにアルバイトを休んだ」「臨時のアルバイトのためにクラブ・サークルを休んだ」「クラブ・サークルの人間関係のためにアルバイトを引き受けた」という3つの質問に対して、それぞれ1、よくある 2、時々ある 3、ほとんどない 4、全くない、からひとつを選ぶようにもとめた。

図8)クラブ・サークル活動のためにアルバイトを休んだ

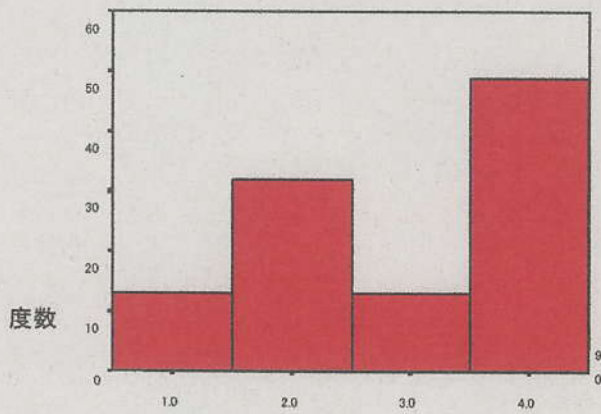


図9)臨時のアルバイトのために、クラブ・サークルを休んだ

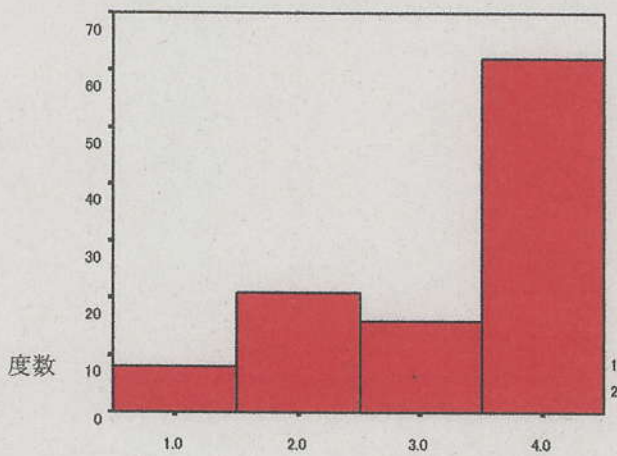


図10)クラブ・サークルの人間関係のため、アルバイトを引き受けた

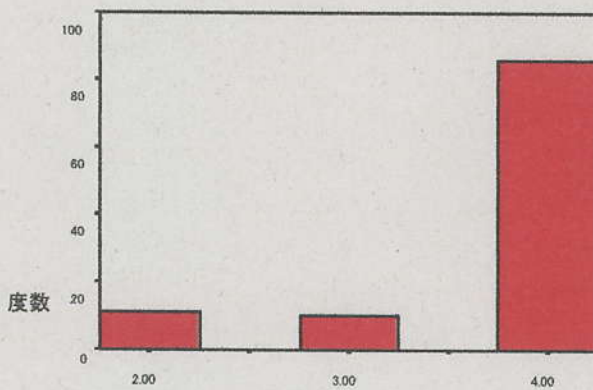


図8、9から、クラブ・サークルのためにアルバイトを休んだことと、臨時のアルバイトのためにクラブ・サークル活動を休んだことがあるか、という質問に対して両方とも全くないと答えた人が最も多かった。これは、もともとクラブ・サークル活動とあるまいとが重ならないように予定を立てているため臨時に予定が入ることはないというケースだといえる。次に、クラブ・サークル活動のためにアルバイトを休んだことがあるかの図8の質問に1 よくある・2 時々あると答えた人が、臨時のアルバイトのためにクラブ・サークルを休んだことがあるかという図9の質問に1 よくある、2 時々あると答えた人の割合に比べて若干高くなっていることがわかる。クラブ・サークル活動を行っているものにとって、活動のほうの優先順位は高いといえる。

また、クラブ・サークル活動の人間関係でアルバイトを引き受けたかに対しては図10をみると、4 全くない が群を抜いて多いことからアルバイトを人間関係で引き受ける人は少ないようだ。

少し例外なインタビュー結果

ここで話をTのインタビューに戻す。彼はアルバイトを始めて約一年になるそうだが総労働日数は20日前後だという。一ヶ月に換算すると2, 3日ということになる。

ちなみに、インタビューした月は1日しか働いていなく給料は8千円程度だという。その理由を聞いてみると「部活動がある前日にアルバイトを入れると次の日きつくなる」「先輩に言われてアルバイトを始めたけどあまり働きたくない」だそうで、部活動をしているとあまり働くのはいやだという思いと、人間関係上なかば仕方なく始めたという考え方が見事に混ざってこのような結果になったのだろう。

結論

この報告ではクラブ・サークル活動を行っている学生のアルバイトの特徴に注目してみた。

活動を行っているものは、活動日数に差はあるものの、時間的な制約を受けながら業種、時間をやりくりしながらアルバイトをしていると言える。また、大学生活の中でクラブ・サークル活動を優先させる傾向が強いと言える。